

【ミニ分科会で ”とことん討論”】

司会/進行 ファシリテーター寺子屋三粒の種
塾 長 木村 航氏

1) ミニ分科会

午前中、皆さんから提出して頂いた「実践例および悩み」を事務局にて集約したものをテーマとして、小さなグループをつくり話し合いを進めていきたいと思います。

今、皆さん午前中の席に引き続き座っていらっしゃいますが、これから皆さんが興味のあるテーマを掲げた席に移動していただき、自由に話し合いをして頂く時間とします。どのようなテーマかは今からお話しますが、その前に少し午前中を振り返ってみたいと思います。

朝 10 時から 12 時半までいろいろな話題提供を聴かれました。普段はいろいろな活動をされている皆さん、夫々の立場からお聞きになり、いろんな事を感じられたことと思います。

ここで午前中、自分が感じたことを、皆さんが座っているテーブルの方と、少しだけお話しする時間を持って頂きたいと思います。

お互いにちょっと目を合わせ、笑顔で「今日は、お元気ですね」「ハイ有難うございます」と話しかけて頂きます。その後 1 人 1 ～ 2 分で、自分が話題提供を聞いてどんなことを感じたか、一人一言ずつで結構です。話す時は一人の方が終わってから、他の人は静かに耳を傾け、頷いて聴くということをお願いします。

話す順番は何方からでも構いません。どのような形に話を進めても結構ですが、必ず一人一言、午前中どんな話であったかということを理解する、そういう時間を過ごして頂きたいと思います。

5 分後に声をかけます。全員話し終えたら、他の話題でも構いません。ではどうぞ。

(5 分後)

午前中の振り返りが終わったところで、まず 4 時までを一区切りとし、私達は最終的にどこへ行きたいかを、皆さんと共有したいと思います。これから話し合いを進めていく途中で、模造紙を 8 つ (A～H) のテーブルに配ります。4 時の時点で 8 つのテーマ毎にテーブルで話したこと、出されたアイデアを模造紙に見える形で書いてください。

今回は“次の一步を踏み出す”というのが大きなテーマです。私達の「成功例および悩み」など、なるべく具体的に書き表し、皆さんで共有して頂きます。そのなかで“次の一步を踏み出す”具体的なアイデアを考え探し出してこのフォーラムで一步を踏み出し、窮地を脱出しましょう。というのが本日 4 時までの試みです。

皆さんから提出して頂いた「実践例および悩み」を事務局において集約した 8 つのテーマ (A～H) は、次のとおりです。

A	実践例	ボランティアを集めて、食事会、ランチ会 懇親会を開催した。
B	実践例	他団体からスカウトしちゃう作戦を・・・。
C	実践例	「中間層」への働きかけと、地域内コミュニティ協議会の立ち上げ準備をしている。
D	悩み	毎年、自分のモチベーションを持続させる自分との戦いがある。
E	悩み	世代交代というか、若い力の必要性を感じています。
F	悩み	会員の皆さんが、それぞれ違う思いを持っているため行事がなかなか組めない。
G	悩み	ボランティア参加者が積極的に活動に臨めるように、ボランティア担当者ができることは？
H	悩み	文化活動・ボランティアと経済の丁度いい関係とは何か。

今からこのテーマについて皆さんで共有して行きたいと思います。

Aテーブルのテーマは「ボランティアを集めて、食事会、ランチ会 懇親会を開催した」という実践例です

多かった質問の一つにコミュニケーションをどう図っていくかというのがありました。その為の実践例としてやはり多かったのが、食べ物を囲んであるいは楽しい場を作るということでした。具体的にどんなことをしたのか実践例ある方、Aテーブルに来てください。それを聞きたい方も集まってください。書かれていたことを少しだけ紹介します。

ボランティア団体の発会式で懇親会を開催しました。（開館10周年記念九博ボランティア）博悠会の実践例です。

Bテーブルのテーマは 「他団体からスカウトしちゃう作戦を・・・」実践例です。

新しい会員をどう獲得していくか、その中で他団体からスカウトしちゃう作戦を試しているところ・・・。古賀市文化のまちづくりの会からです。

実際スカウトしちゃったという作戦はどのような手法だったのかお話し頂きたいと思います。その他地域会員の募集はこんなことをしたらいい、知恵をお持ちの方Bテーブルに集まって意見の交換をしてください。

Cテーブルのテーマは「中間層への働きかけと、地域内コミュニティ協議会の立ち上げ準備をしている」

・・・中間層とは、働き盛り世代、子育て世代、地域に住む公務員など・・・

多かったのが、新規会員不足、世代間のコミュニケーション、若い世代を活動の中にどうやって取り込むか、ということが関心事として挙げられるような気がします。その中で中間層への働きかけを行っている。そして地域内コミュニティ協議会の立ち上げ準備をしている。長崎ベイデザインセンターから頂きましたが、ここでは中間層

への働きかけを具体的にどのような形でしているのか、そしてこのコミュニティ協議会とは一体どのようなものか、どんなふうに行っているのか、そのようなことを C テーブルで交換して頂きたいと思います。

D テーブルのテーマは「世代交代というか、若い力の必要性を感じています」

文化活動は大切だと思っているし、10 年間続けてきた実績は繋がってきています。だけど毎年、自分のモチベーションを持続させる自分自身との戦いでもあります。これは「仲間づくりダブ」の悩みです。

毎年活動を重ね、歴史を作っていく中で、どのようにモチベーションを保っていくか、活性化を図っていくかについての悩みですね。私にもこんな悩みがあるというところから初めて頂ければと思います。

E テーブルのテーマは「世代交代というか、若い力の必要性を感じています」

活動が長くなってきたのでやはり世代交代といえますか、若い力の必要性を感じています。世代交代について悩みを抱えている方 E テーブルへ。

F テーブルのテーマは「会員の皆さんが、それぞれ違う思いを持っているため行事がなかなか組めない」

会員の皆さんが夫々違う思いを持っているため、行事がなかなか組めない「糸島を語る会」からの提案です。一体どのような実態がありどんな思いがあったのでしょうか。お悩みを共有して頂ければと思います。

G テーブルのテーマは「ボランティア参加者が積極的に活動に臨めるように、ボランティア担当者ができることは？」

今度は、主催者ではなく支援する側の担当者はどのようにしたら良いかという悩みです。北九州芸術劇場の文化サポーターの提言です。

H テーブルのテーマは「文化活動・ボランティアと経済の丁度いい関係とは何か」

文化と経済の連携をどのように進めればよいか。観光等と結びつかない文化は廃れる、ということが話題提供の中に出ていたと思いますが、文化活動あるいは文化ボランティア活動と経済の丁度いい関係とは一体どんなものか、悩みの一つとして上げさせて頂きました。

以上 A～H まで、8 つをテーマとして掲げました。

これから皆さん一人一人が、今一番関心があり、皆とテーマを分かち合いたい、と思うテーブルに着いて、十分話し合い理解を深めて頂きます。目的は先ほど申し上げたように、各テーブルで出た実践例や悩み、具体的なアイデアを模造紙に表すことです。

もしかして今、A～Hに話が出たけれど、あまりピーンとこない方もいるかも知れません、つまり私はここだというテーブルがないという方は、歩き回っていろいろなテーブルに“ちょっかい”しまくる役割もあります。

全体的に見ると、一つのテーブルに集中している人もいるし、テーブルを渡り歩く人もいます。その人はもしかしてアイデアや悩みを媒介して、蜜蜂のような働きをしているのかも知れません。関心事が一つしかないからといって、一つのテーブルに座り続ける必要もありません。他のテーブルに行っているいろいろな話を聞いたり、話を広げて頂ければ良いのです。そして模造紙に書き終えたところで一旦終了という形にして頂きたいと思います。

なるべく沢山のテーブルに行って知見を広げて頂きたいと思います。あるいは自分と共通の悩みを持つ方と悩みを分かち合ったり、具体的に実践がある人は、それを模造紙に書き込んでください。

最後に、模造紙に書く場合、テーブル上のカラーペンを使い、なるべく大きな字で書いてください。4時から全体を共有する時間を持ちたいと思っています。

2) 全体共有タイム

“ツボ”から実践への“次なる一歩”とは

皆さんが話してきたアイデアや共有した悩み、新しく見えてきたヒント等を模造紙に書いて貰いました。これから各テーブルで話し合われた事を中心に、全体で共有していきたいと思います。そして一つのテーブルの発表が終わる毎に、ナガサキベイデザインセンターの梅元氏に、長崎の取り組みなど知見を絡めて、お話を頂きたいと思います。